

チャフ・ヘイ(3か月齢)給与体系表(雄)

生後週齢	1週目							2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
生後日齢	1	2	3	4	5	6	7	14	21	28	35	42	49	56	63	70	77	85	92	99	
体重	32.0	32.0	32.2	32.4	32.8	33.2	33.6	35	38	42	47	53	59	65	72	80	88	96	104	112	
DG(期間)	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.4	0.6	0.7	0.9	0.9	0.9	1.0	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	
ミルク・母乳(ℓ)	1.0	1.5	2.0	2.0	2.5	2.5	3.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	
人工乳(kg)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.5	0.7	0.8	0.9	1.0	1.2	1.3	1.4	1.5	1.5	1.5	1.2	
育成用(kg)																			0.3	0.5	
良質乾草(kg)			0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3	0.5	0.5	0.5	0.5	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	
チャフ・ヘイ(kg)			0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.3	0.3	0.5	0.5	0.7	0.7	0.8	0.8	0.8	0.8	1.0	1.0	
※分娩後の注意点	※分娩7日間の注意点							※生後から3日月齢までの注意点													
○分娩直後リッキング(子牛の拭き取り)が必要です。強いマッサージ効果があり、新生子牛の排尿、排糞、呼吸や血液循環が促進されると考えられています。 ○分娩後の初乳は6時間以内、12時間までに総量の約3ℓを目安にして下さい。 ○初乳は、哺育欲を示したら出来るだけ早く給与して下さい。	○和牛子牛は、寒さに非常に弱いいため、寒い時期には、保温が非常に重要です。 ○床からの冷気が子牛の腹を冷やすため、十分なおが粉やわらを敷くことにより、保温性・吸湿性が増します。床は常に乾燥している状態が理想です。また、子牛のゆっくり寝れる場所の確保も必要です。 ○換気も大事であり、環境の悪い場所では、呼吸器病を発症し、合併症で下痢の多発、肺炎等の疾病の恐れがあります。 ○子牛の平熱は、38.5℃～39.5℃とされています。39.5℃以上の時は処置する必要があります。							○哺育期は第一胃の発達、疾病の予防が大切です。 ○第一胃の発達には、人工乳の摂取量が影響します。第一胃内の微生物は、人工乳や植物の蛋白質を必要とし、絨毛の発達を促進します。(人工乳の多給は疾病の要因になるため、要注意)飲水、環境、給与量に注意してください。 ○疾病予防として、保温対策・衛生対策を行ってください。(絶えず新鮮な空気、隙間風は厳禁・密飼いは避けましょう。) ○哺育期の群編成をいきなり多頭数にしないでください。極度のストレスを与える子牛が発生する恐れがあります。 ○子牛の移動と飼料の切替を同時にしないでください。ストレスと下痢の要因が高くなります。													

チャフ・ヘイ(3か月齢)給与体系表(雌)

生後週齢	1週目							2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
生後日齢	1	2	3	4	5	6	7	14	21	28	35	42	49	56	63	70	77	85	92	99	
体重	28.0	28.0	28.2	28.4	28.6	29.0	29.6	31	34	38.4	43.5	49.3	55.6	61.8	68.7	75.6	82.4	89.3	96	103	
DG(期間)	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.4	0.6	0.7	0.8	0.9	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	
ミルク・母乳(ℓ)	1.0	1.5	2.0	2.0	2.5	2.5	3.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	
人工乳(kg)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.5	0.7	0.8	0.9	1.0	1.1	1.1	1.4	1.4	1.4	1.4	1.2	
育成用(kg)																			0.3	0.4	
良質乾草(kg)			0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3	0.5	0.5	0.5	0.5	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	
チャフ・ヘイ(kg)			0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.3	0.3	0.5	0.5	0.7	0.7	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	
※分娩後の注意点	※分娩7日間の注意点							※生後から3日月齢までの注意点													
○分娩直後リッキング(子牛の拭き取り)が必要です。強いマッサージ効果があり、新生子牛の排尿、排糞、呼吸や血液循環が促進されると考えられています。 ○分娩後の初乳は6時間以内、12時間までに総量の約3ℓを目安にして	○和牛子牛は、寒さに非常に弱いため、寒い時期には、保温が非常に重要です。 ○床からの冷気が子牛の腹を冷やすため、十分なおが粉やわらを敷くことにより、保温性・吸湿性が増します。床は常に乾燥している状態が理想です。また、子牛のゆっくり寝れる場所の確保も必要です。 ○換気も大事であり、環境の悪い場所では、呼吸器病を発症し、合併症で下痢の多発、肺炎等の疾病の恐れがあります。 ○子牛の平熱は、38.5℃～39.5℃とされて余す。39.5℃以上の時は処置する必要が求められます。							○哺育期は第一胃の発達、疾病の予防が大切です。 ○第一胃の発達には、人工乳の摂取量が影響します。第一胃内の微生物は、人工乳や植物の蛋白質を必要とし、絨毛の発達を促進します。(人工乳の多給は疾病の要因になるため、要注意)飲水、環境、給与量に注意してください。 ○疾病予防として、保温対策・衛生対策を行ってください。(絶えず新鮮な空気、隙間風は厳禁・密飼いは避けましょう。) ○哺育期の群編成をいきなり多頭数にしないでください。極度のストレスを与える子牛が発生する恐れがあります。 ○子牛の移動と飼料の切替を同時にしないでください。ストレスと下痢の要因が高くなります。													

チャフ・ヘイ和牛子牛育成給与体系表(去勢)

生後月齢	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
体重	32	42	65	96	127	160	195	230	265	300
DG(期間)		0.76	1.02	1.02	1.09	1.15	1.15	1.15	1.15	1.15
ミルク・母乳(ℓ)	4.0	4.0	4.0	4.0						
人工乳(kg)	0.1	0.4	1.3	1.2						
育成用(kg)				0.5	2.5	3.5	4.0	4.5	4.5	5.0
良質乾草(kg)	0.1	0.2	0.5	0.8	1.7	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
チャフ・ヘイ(kg)		0.3	0.8	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
※哺育期・育成期の注意点	<p>○分娩直後リッキング(子牛の拭き取り)が必要です。強いマッサージ効果があり、新生子牛の排尿、排糞、呼吸や血液循環が促進されると考えられています。○分娩後の初乳は6時間以内、12時間までに総量の約3割を目安にして下さい。○初乳は、哺育欲を示したら出来るだけ早く給与して下さい。</p> <p>○子牛の平熱は38.5℃～39.5℃とされています。39.5℃以上の時は処置する必要があります。○哺育期の群編成をいきなり多頭数にしないで下さい。極度のストレスを与える子牛が発生する恐れがあります。○子牛の移動と飼料の切替を同時に行わないでください。ストレスと下痢の要因が高くなります。○この時期の飼料は育成飼糧でなく、人工乳を与えてください。○人工乳の給与量を守ってください。食べるからと言って給与量を上げてたくさん摂取させると疾病の要因が高くなります。</p> <p>○育成期は第一胃の発達、疾病の予防が大切です。○第一胃の発達には、育成飼糧、粗飼料、チャフヘイの摂取量が影響します。第一胃内の微生物は、人工乳や植物の蛋白質を必要とし、絨毛の発達を促進します。飲水、環境、給与量に注意してください。○疾病予防として、保温対策・衛生対策を行ってください。(絶えず新鮮な空気、隙間風は厳禁・密飼いは避けましょう。)○去勢は、できる限り4か月以内を目安としてください。○育成期後半には、反芻の促進と第一胃の容量確保のため稲わらを若干給与しましょう。</p>									

チャフ・ヘイ和牛子牛育成給与体系表(雌)

生後月齢	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
体重	28	39	65	91	117	143	170	200	230	260	290
DG(期間)		0.86	0.86	0.86	0.86	0.89	0.99	0.99	0.99	0.99	0.99
ミルク・母乳(ℓ)	1.0～4.0	4.0	4.0	4.0							
人工乳(kg)	0.1	0.4	1.3	1.2							
育成用(kg)				0.4	2.0	3.0	3.5	4.0	4.0	4.0	4.5
良質乾草(kg)		0.3	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
チャフ・ヘイ(kg)		0.3	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7

※哺育期・育成期の注意点

<p>○分娩直後リッキング(子牛の拭き取り)が必要です。強いマッサージ効果があり、新生子牛の排尿、排糞、呼吸や血液循環が促進されると考えられています。</p> <p>○分娩後の初乳は6時間以内、12時間までに総量の約3ℓを目安にして下さい。</p> <p>○初乳は、哺育欲を示したら出来るだけ早く給与して下さい。</p>	<p>○子牛の平熱は38.5℃～39.5℃とされています。39.5℃以上の時は処置する必要があります。</p> <p>○哺育期の群編成をいきなり多頭数にしないで下さい。極度のストレスを与える子牛が発生する恐れがあります。</p> <p>○子牛の移動と飼料の切替を同時に行わないでください。ストレスと下痢の要因が高くなります。</p> <p>○この時期の飼料は育成飼糧でなく、人工乳を与えてください。</p> <p>○人工乳の給与量を守ってください。食べるからと言って給与量を上げてたくさん摂取させると疾病の要因が高くなります。</p>	<p>○育成期は第一胃の発達、疾病の予防が大切です。</p> <p>○第一胃の発達には、育成飼糧、粗飼料、チャフヘイの摂取量が影響します。第一胃内の微生物は、人工乳や植物の蛋白質を必要とし、絨毛の発達を促進します。飲水、環境、給与量に注意してください。</p> <p>○疾病予防として、保温対策・衛生対策を行ってください。(絶えず新鮮な空気、隙間風は厳禁・密飼いは避けましょう。)</p> <p>○育成期後半には、反芻の促進と第一胃の容量確保のため稲わらを若干給与しましょう。</p> <p>○子牛育成用の多給は、子牛の体長が遅くなり増体が期待できなくなる場合があります。</p>
--	---	--